

特集 戦後70年目を迎えて

「つなぐ」

「戦争を二度と繰り返してはならない」
先人たちが現在の私たちへ残してくれた教訓であり、
私たちが後世に伝えなければならない言葉です。
では、なぜ戦争をしてはいけないのか。なぜ伝えていかなければならないのか。
戦後70年の節目に改めて、考えてみませんか。



戦争と笠間

一九三一年（昭和6）の満州事変から約十五年間続いた戦争で、住民の生活は大きな影響を受けました。

「食糧の絶対確保が必勝の鍵」として、政府から米を差し出すことを強く求められ、農村からも出兵が増えたことによる労働力不足により、まちは食糧難となりました。当時の人々はドングリやサツマイモなど、代用品の確保に努めていたといえます。戦況が悪化するのと、「少しでも国民みんなでお金を出して武器に充てよう」という動きから、住民の生活はさらに切り詰められました。特に農村部では一九二九年（昭和4）の世界大恐慌の影響を受けていたこともあり、この頃は飢えによって亡くなった方も少なくありませんでした。

一九四二年（昭和17）にい

よいよ本土への空襲が始まると、何万人もの子どもたちが避難のため、地方へ疎開してきました。「上を向いて歩こう」でお馴染みの坂本九さんもこの時期、佐白山にある親戚の家に疎開していました。

一九四五年（昭和20）八月十五日に終戦を迎えたものの、住民の落胆と不安はとても大きいものでした。

筑波海軍航空隊

一九三四年（昭和9）、航空機操縦要員の教育を担当した、霞ヶ浦海軍航空隊の分遣隊として旧友部町に設置され、四年後には筑波海軍航空隊として独立しました。下宿先として海軍兵を預かる家庭も多く、住民にとって筑波海軍航空隊は身近な存在でした。

一九四一年（昭和16）ハワ